

2019 年 7 月 25 日

バイエリア構想

グレーター・バイエリア構想における香港(1) ～香港政府の姿勢～

香港、マカオ、広東省との協力強化を通じて世界一流のバイエリアを目指す「広東・香港・マカオグレーター・バイエリア」(以下、グレーター・バイエリア)構想。香港にとっては、中国本土の長期的な発展計画に初めて組み入れられ、広東省との経済面での連携強化に拍車を掛けるものになります。一方、香港では、広東省との連携強化は「独自の存在意義低下につながる」と懸念する向きもあります。本稿では、2 月に国務院が発表した『広東・香港・マカオグレーター・バイエリア発展計画綱要』(以下、『計画綱要』)に触れつつ、グレーター・バイエリアでの香港の役割を考察します。第一回目の本稿では、香港政府のグレーター・バイエリア構想に対する姿勢を紹介いたします。

■香港政府のグレーター・バイエリア構想に対する期待

香港政府のグレーター・バイエリア構想に対する姿勢を如実に表したといえるのが、2 月 18 日、国務院が『計画綱要』を発表した直後の林鄭月娥(キャリー・ラム)行政長官のコメントです。コメントでは、中央の発表に歓迎の意を示すとともに、中央が『計画綱要』策定に当たり、香港の意見を尊重してくれたことに感謝の意を表明しており、中央が香港の意を汲んだことが窺えます。

そのうえで、キャリー・ラム行政長官は、グレーター・バイエリア構想について、香港に次の 2 つのチャンスをもたらすとの見解を示しています。

- (1) 香港経済の新たな経済成長のドライバーとなり、経済・産業の多角化を促進する。
- (2) 香港市民に、より広い生活及び成長の空間を提供する。

図表 1:バイエリア形成の重要な意味合い (第 1 章・第三節)
<p>「一国二制度」の実践に資する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 香港、マカオ及び香港、マカオに住む同胞に本土でのより多くの成長機会を提供し、香港、マカオの長期的な繁栄安定を維持する
<p>新たな発展理念の貫徹に資する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 成長の新たなドライバーの育成を加速させ、イノベーション主導の発展を実現させる
<p>一段の改革深化、開放拡大に資する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海外とのアクセスの新たなプラットフォームを構築する
<p>「一帯一路」建設の推進に資する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「シルクロード経済ベルト(一帯)」と「21 世紀海上シルクロード(一路)」を結び重要なサポートエリアを構築する

(出所)『広東・香港・マカオグレーター・バイエリア発展計画綱要』

図表 2:バイエリアの戦略的位置付け(第 2 章・第三節)
<p>活力に満ちた世界レベルの都市群</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 世界の新興産業、先端製造業及び現代サービス業基地を構築し、世界レベルの都市圏を形成
<p>世界に影響力を有する国際科学技術イノベーションセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 世界の科学技術イノベーションの重要拠点、新興産業の重要な創出拠点をを目指す
<p>「一帯一路」建設の重要なサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 重要な影響力を具備する国際交通物流ハブ及び国際文化交流センターを構築
<p>中国本土と香港、マカオとのより協力を深めるモデルエリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 深圳前海、広州南沙、珠海横琴を中心に、ヒト、モノ、カネ、情報のよりスムーズで秩序ある流れを促進
<p>居住、就業、観光に適した良質な生活圏</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 香港市民、マカオ市民の本土での教育、就業、創業、生活のためのより利便性の高い条件を提供

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は法律、規制、財務、投資、税務、会計上の助言を行うものではありません。本資料は、作成日時時点で弊行が一般に信頼できるとされる資料に基づいて作成したものです。情報の正確性・完全性を弊行で保証する性格のものではありません。また、本資料の情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取扱いいただきますようお願い致します。本資料の一部または全部を、電子的、機械的、またはその他の手段を問わず、書面での事前同意なしに開示、複製または転送等することを禁じております。

■期待の背景

では、上述の2つの期待の裏にある背景は何でしょうか。(1)は経済成長の持続的で安定した支えの欠如、(2)は開発可能用地が限定的となる中で不動産価格高騰による住宅問題——が挙げられます。

特に、前者は『計画綱要』の各地の課題にも盛り込まれ(図表3)、こうした課題があるからこそ、グレーター・ベイエリアの構築の必要性が強調されています。

実際、サービス業への過度の依存体質(図表4)は、世界的な潮流となるイノベーション推進の遅れの

一因と指摘される等、諸々の歪みをもたらし、経済成長の新たなドライバーを模索する必要性が高まっています。

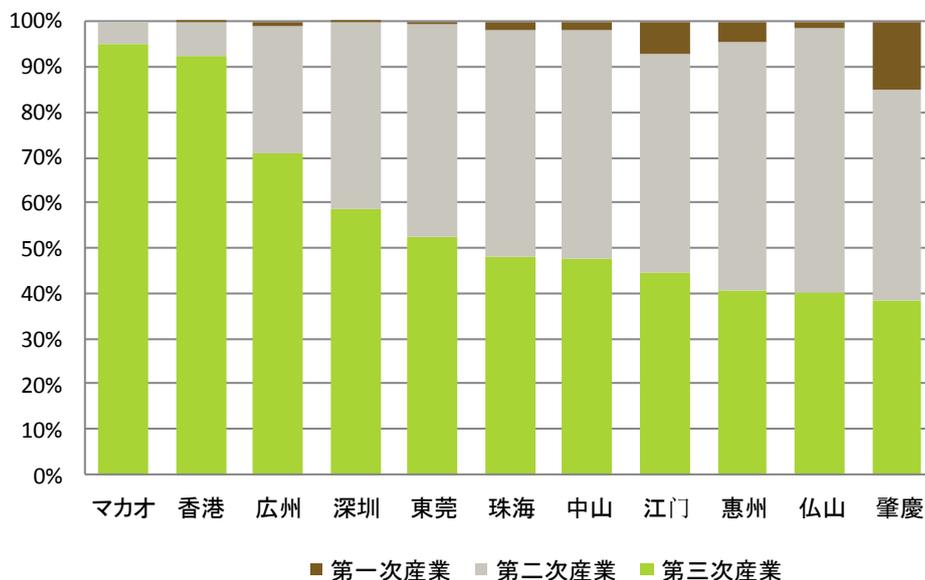
こうした中、競争力を高めるべく経済・産業構造の多角化に向け、香港政府は近年、科学技術イノベーション推進策を強化しています。

図表3: ベイエリア各地の課題(第1章・第二節)

ベイエリア全体	「一国二制度」の下、広東省、香港、マカオは 社会制度や法律制度が異なり 、市場一体化の一段の推進が待たれる 高効率でスムーズなサプライチェーンが形成されていない ベイエリア内部の発展格差が依然大きい。 一部の地域、分野では同質化競争や資源配分の歪み がある
香港	経済成長の持続的で安定した支えが欠如
マカオ	経済構造が相対的に単一
広東省9都市	市場経済体制の整備が待たれる

(出所『広東・香港・マカオグレーター・ベイエリア発展計画綱要』)

図表4: グレーター・ベイエリア各都市の産業別 GDP 構成比(2018年)



(出所)香港政府政制・内地事務局の統計を基に作成

(執筆: 株式会社三井住友銀行 コーポレート・アドバイザー本部 香港グループ)

本誌内容に関するご照会は、お取引店までご照会ください。